

Chapter 2

Around the World

■マゼランと世界一周した男たち

スペインを出発し、フィリピンのセブ島にて志半ばで亡くなったマゼラン。その後彼の部下たちがスペインまで帰り、世界一周を成し遂げました。5隻で出発した船は1隻となり、265名いた乗組員は18名まで減ったことから、過酷な旅だったことがうかがえます。

この偉業を成し遂げた18名のうちの一人、アントニオ・ピガフェッタが付けていた膨大な量の航海日記にはマゼランの大航海の様子が事細かに書かれており、当時の航海技術や船乗りの様子、世界の風俗などを知る大変貴重な資料となっています。

また、無事にスペインまで戻ってきた唯一の船であるビクトリア号の指揮を執っていたフアン・セバ스티アン・エルカーノは、その功績をたたえられて巨大な富を得ることとなります。しかし、エルカーノはスペイン帰還から3年後に再び世界一周の航海に出たその洋上で、栄養失調により亡くなっています。その後も航行は失敗が続き、とうとうスペインはポルトガルに西回り航路を売り渡してしまいましたが、これを利用することはなかったそうです。



授業の興味付けに役立つChapterのトピックに関連した読み物。



■マゼランよりも前

一部の歴史家たちは、マゼランよりも世界一周を達成した人物がいると指摘しています。その人物とは「マラッカのエンリケ」と呼ばれる奴隷です。

エンリケはマレー語圏で生まれ、マラッカから西回りでスペインへ渡り、やがてマゼランに仕えます。マゼランとともに世界一周の旅に同行し、その道中で一行はフィリピンのセブ島に到着します。試しにエンリケがマレー語で話すと言葉が通じ、とうとう自分の生まれ故郷

に帰ってきたことを知るのでした。

やがてエンリケは通訳として活躍し、マゼランたちもイスラム文化圏だった島民にキリスト教を布教します。最初はうまくいったものの、マクタン島でラプ=ラプ王と衝突してマゼランは殺害されます。このときエンリケもマゼランとともに傷を負っており、奴隷とは言えマゼランに忠実に仕えていたことがうかがえます。マゼランの死後はセブ王の助けもあり、艦隊を抜けて現地で自由の身になったエンリケですが、その後の消息は分かっていません。

エンリケがマラッカを出発してヨーロッパにたどり着いたとき、ヨーロッパから戻ってきたときでは別の航海のため、これを世界一周と言うかどうかは評価が分かれます。しかし、様々な国の景色と人々を見つめ、長い年月を経て故郷に帰ってきたエンリケは、尽きることのない大冒険記をいつまでも話し続けたのでしょね。

■『80日間世界一周』と世界史

『海底二万里』『月世界旅行』などSF小説の傑作をたくさん遺した作家のジュール・ヴェルヌ。彼はSFの父と称され、現代の作家たちに多大な影響を与えました。その中でも『80日間世界一周』は、絵本やアニメ、映画など様々な媒体で取り上げられたほど、特に有名な作品です。お湯の温度1℃、クラブまで行く道の歩数1歩た